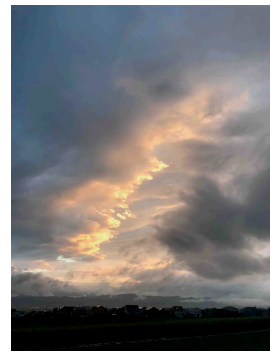


# ひよこ新聞

北海道の梅雨（エヅつゆ）でしょうか。一日中曇りがちで、連日雨が降り、太陽が顔を出すのは時々…そんな天気が続いています。本当は日没が遅くて、夕日がきれいで一番好きな季節の一つなのですが…今は異常気象で災害が起きないことを望んでいます。幸い子どもの病気に大きな流行はありません。暑苦しい気候なのであせもを中心とした皮膚病、食中毒が一番心配です。気をつけましょう。



## 夏の子供の皮膚病

**あせも**：多量の汗をかいたときにできやすくなります。小児は汗をたくさんかくので、夏場には多くなります。

赤ちゃんでは背中、特に首の後ろと腰回り、おでこに多く見られます。清潔に保ち、サラサラの肌にすれば多くは改善します。赤み・かゆみが強い時は炎症を軽減する軟膏（スタデルム、ロコイドなど）を使用します。



**虫刺され**：皮膚を露出する機会が増える夏に多くなります。毛虫の毛による接触性皮膚炎の場合は多発します。出現部位、その日の服装・行動から診断されます。ステロイドを含む軟膏を使用します。かゆみが強い時には抗アレルギー剤を内服します。



**(夏カゼ) ウイルスによる発疹**：有名なのは手足口病です。典型例はその分布からすぐわかります。左右対称に出現する、カゼ症状・発熱を伴うことがある、口内炎が見られることがある、流行している…などから診断されます。痛み・かゆみがない場合は様子を見ます。



## 小児科の感染症：パラインフルエンザウイルス

小児科以外にはほとんど知られていないと思いますが、知っておくと役に立つことがあります。

パラインフルエンザウイルスにはいくつかのウイルスが含まれており、それらは感冒からインフルエンザ様症候群や肺炎まで多岐にわたる呼吸器疾患を引き起こす；クループは最も頻度の高い重症の臨床像である。診断は通常臨床的に行う。治療は対症療法になります。

1型、2型、3型、および4型がある。流行は、保育所、小児病棟、および学校で起こりうる。1型および2型は秋に流行を引き起こす傾向にある。3型による疾患は小規模な流行で、1歳未満の大部分の小児に感染する；発生率は春に上昇する。パラインフルエンザウイルスは反復感染を引き起こす恐れがあるが、再感染時は一般により軽症である。この

ため、免疫能が正常な成人では、ほとんどの感染症は無症候性または軽度である。

小児で最もよくみられる病態は上気道疾患であり、発熱はあっても微熱である。パラインフルエンザ1型は、主に生後6～36カ月の乳児でクループ（喉頭気管気管炎—クループ）を引き起こす。クループは感冒症状で始まる。後に発熱、犬吠様咳嗽、嘎声、および吸気性喘鳴が発生する。パラインフルエンザウイルス3型は、幼若乳児に肺炎および細気管支炎を起こしうる（細気管支炎）。これらの疾患は一般に、RSウイルスにより引き起こされる疾患と鑑別できないが、より軽症であることが多い。ウイルス特異的な診断は不要です。

ひよこドクター：どの子もかかる病気です。特徴はクループ（犬の吠えるような咳が特徴）です。乳児がかかると呼吸困難を起こすことがあり注意が必要です。診断は普通症状からなされるのですが、施設での流行状況を知るととても役に立ちます。1型および2型は秋に、3型は春に多い傾向があります。他の感染症と同様に再感染がありますが、再感染は軽症になることが多いようです。RSV同様に乳児期早期にかかれば重症化しやすいので、流行状況を確認して生後早期の感染を避けるようにすべきです。一つのウイルスからも多くのことを学ぶことができます。

## ひよこ絵本館 377 回

### 《そおっと そおっとね》

小さな女の子のお手伝いの様子を描いた作品です。カップを持つ手には力が入り、ゆっくり そおっと運ぶその表情は真剣そのもの。猫や犬そしてコロコロと転がるボールをおととつと息をひそめながらクリアしてゆく姿にがんばれーと応援したくなります。そうだよね、初めはこんなに心もとなかったんだよね。頑張った姿にギュッとしたりします。1歳から2歳のお子さんもわかってくれる絵本です。お手伝いの幸せを親子でシェアできるといいですね。（Yすぎやま）



## お知らせ

8月6日(月)～16日(木)はクリニック夏休みのため休診です。ご不便をかけます。8月20日より今シーズンのインフルエンザワクチン接種の予約受付を始めます。料金は昨年と同じです。

